「広報美濃加茂市」誕生から700号

創刊当時を振り返る

「広報美濃加茂市」は、47年前誕生しました。
今回は第1号の発行を担当した川合市長（当時企画調整室）に、創刊するに当たってのエピソードや当時の美濃加茂市のようす、今後の広報紙のありかたについて広報モニターの林さんが、インタビューしました。

当時は、8カ町村が合併したばかりであり、行政の混乱もありました。
そこで、各種行政についてみなさんにお知らせしようということから「広報美濃加茂市」が誕生しました。
「市内めぐり」など、企画モノは自分で市内を駆けめぐり取材した覚えがあります。

創刊に当たっての、思い出は？

林　今の広報紙の前身である、「広報美濃加茂市」を創刊されたのが、川合市長さんということをお聞きして、今振り返られて、第1号を発行するにあたって苦労されたことなどのお話しを聞かせてください。

川合　当市も誕生したばかりという事で、事務的にも混乱していました。そんな中、市民に市の施策を知っていただこうということになり、「広報美濃加茂市」を発行しました。

取材方法もわからず、記事を探して東奔西走した記憶があります。今、読み返してみると行政からのお知らせだけのようですが、企画モノとして「市内めぐり」を掲載しました。これは、8カ町村が合併して間もないため、市民のみなさんに市内を知っていただくように企画しました。隅々まで取材したおかで、市内のことがよくわかりました。写真は、カメラもない時代でしたので、町の写真屋さんにお願いしたと思います。

創刊当時と現代を比べると共通点があると思うのですが

林　創刊号を読むと、「経費の節減と重点施策による効率化」や「政府のデフレ策と相まって必ずしも楽観を許さない状態が…」とありますが、社会を取り巻く環境は時代こそ違え、現代と似ているように思えるのですが。

川合　時代背景は違いますが、厳しい経済状況は似ているかもしれません。なにしろ当時は、世の中も豊かではなかったですが、誕生したばかりの美濃加茂市の台所事情も、大変厳しい状態でした。

確か昭和30年度の予算の市税収入が4800万円（**注・歳入に占める割合は、26・7パーセント**）だったと思います。今年度予算の市税収入は、73億円（**注・歳入に占める割合は、42・8パーセント**）を見込んでいますからその厳しさが分かっていただけるのではないでしょうか。

広報の記事として、記憶にあるのは？

林　広報の記事として印象にあることはどんなことですか？。

川合　やはり、予算ですね。さきほども話しましたように市の台所事情は大変厳しかったです。そのなかでも、特に学校建設など教育費の割合が多かったこと。

これは、山之上小学校・三和小学校の建て替えと北中学校の新設で新市になって始めての大きな事業だったと記憶しています。新校舎建設の話題は、広報でも、何度も掲載した覚えがあります。また、上水道の新設や道路改良といった都市基盤の整備も重要課題でしたね。

新市誕生当時の混乱はいつごろまで続いたのですか

林　さきほど、新市誕生の混乱の話しが出ていましたが、いつごろまで続いたのでしょうか。

川合　たとえば、市民という言葉は、当時はピンときませんでしたが、合併の翌年（昭和30年）に、日本ライン音頭などができ、市内各地で盆踊り大会が盛大に行われました。なかでも、太田町の徹夜踊りには市内外から多くの人出があり大変盛り上がりました。そのあたりからようやく市民という言葉がふつうに使われるようになったのではないですか。

地域に根ざした市民運動について

林　創刊号から一年ほどの広報紙を読ませていただいて気がついたのですが、当時は、「新生活運動」など、地域に根づいた活動が活発だったと思いますが。

これは、地域コミュニティの先駆けとも言うべきモノではないでしょうか。

川合　そうです。先ほどもお話したように、当時は、市民生活全体に経済的な余裕がありませんでした。そこで、冠婚葬祭など、簡素化しようということになり市民のみなさんが、積極的に取り組まれたと思います。新生活運動の活動には、地域のコミュニティ的な役割りがありましたね。

やがて、その活動も食生活の改善や福祉の向上へと活動の輪が広がりました。

これからの広報について

林　今、そうした地域コミュニティということが希薄になっているのではと感じるのですが。

川合　そうですね。だからこそ、市役所と市民、または市民同士を結ぶコミュニティ手段として広報紙の役割が大きくなってくると思います。

林　これからの広報紙は、こうした市民参加がもっと増えてくるのではないでしょうか。

川合　これからの時代の広報紙は、市（行政）の考え方を市民にお知らせするとともに、それについて市民のみなさんに真剣に考えていただく場になるのではないでしょうか。それが今後の市（行政）を変えていくのではないでしょうか。

▲　インタビュアー　林　加代子さん（太田町在住）
平成13年度広報モニター。大好きなコーラス活動を通じて、老人福祉施設などへのボランティア活動を続けてみえます。